

『青猫』刊行 100 年記念展

『青猫』が

『定本青猫』に

辿りつくまで



BLUE MELANCHOLIE

2024.1.27 | 土 | >>> 5.26 | 日 |

- 会場：前橋文学館 2階展示室 ■開館時間：9時～17時（入館は30分前まで）
- 休館日：水曜日 2月26日（月）～ 3月5日（火）（空調工事のため臨時休館） 3月21日（木）※3月20日（水・祝）は開館
- 観覧料：一般500円 ※朔太郎展示室もご覧になれます。※高校生以下無料 ※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料
- 観覧無料の日：1月27日（土）（展覧会初日）
- 協力：群馬県建具組合連合会、群馬県職業能力開発協会



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

詩とは意志の解脱であり、その涅槃への思慕を歌ふ郷愁である

感情の精緻や神経の戦慄を口語で表現した第一詩集『月に吠える』は、当時の詩壇へ大きな影響を与え、萩原朔太郎の名を世に知らしめました。その後6年の時を経て、1923(大正12)年1月に第二詩集『青猫』、7月には第三詩集『蝶を夢む』を刊行、それから100年を迎えました。

『青猫』は、朔太郎が『月に吠える』以前より囚われ続けてきた情欲や精神的苦悩、さらに私生活の変化などから色濃く受けた疲労感や倦怠感、思索的鬱鬱性など、それらを独自の感性で口語詩へと昇華させています。後年に執筆の「青猫を書いた頃」では、「青猫を書いた頃は、私の生活のいちばん陰鬱な梅雨時だった。その頃私は、全く「生きる」といふことの欲情を無くしてしまった。」(「新潮」1936(昭和11)年6月 新潮社)と回想しています。

本展では『青猫』を軸に、詩作に影響を与えた苦悩やエピソードの経緯を書簡や原稿、初出誌などの資料から紹介、創作過程の一端を紐解きます。さらにそこから、1936(昭和11)年に自ら定本として刊行した『定本青猫』へ辿りつくまで、『蝶を夢む』や他の詩集との関係性も含め、背景を探ります。



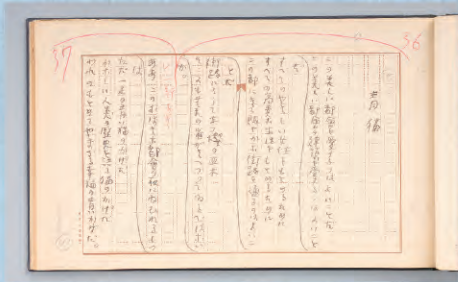
萩原朔太郎 はぎわら さくたろう

1886(明治19)年11月1日、群馬県前橋市生まれ。旧制前橋中学時代、従兄弟の萩原栄次から短歌の手ほどきを受け、文学の道へ。詩に転向後、1917(大正6)年に第一詩集『月に吠える』を刊行し、詩壇へ大きな影響を与える。1923(大正12)年に『青猫』を出版、これにより口語自由詩の確立者として不動の地位を得た。詩作の他、アフォリズムやエッセイ、詩論も多数執筆。1942(昭和17)年5月11日に肺炎のため死去、享年55歳。

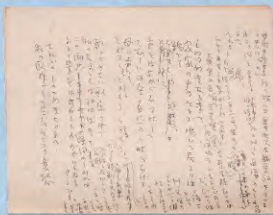
No.1~5 展示資料



No.1 萩原朔太郎書簡 高橋元吉宛 1917(大正6)年秋頃



No.2 「蝶を夢む」自筆原稿帖より「青猫」(一部)



No.3 創作ノート2(ノート7)より「鶏」の草稿



No.4 「青猫追記」『日本詩人』1923(大正12)年1月号 新潮社



No.5 「箱人の独語」『書物展望』1942(昭和17)年11月号 書物展望社

BLUE MELANCHOLIE



◎アクセス◎
 電 車：JR前橋駅北口から徒歩約15分/タクシーで約10分
 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分
 バ ス：JR前橋駅北口バスのりば
 ・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)
 「中央前橋駅」下車 徒歩約5分
 ・6番のりばから「菫窪公園・菫公園」行き
 「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分
 自動車：関越自動車道 前橋ICから車で約15分
 ※広瀬川サンワパーク(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。

企画展 記念イベント

作品朗読会 『青猫』世界~情炎と憂鬱が昇華するとき~
 『青猫』の世界を出演者がそれぞれの感性と個性で表現豊かに朗読します。

2024年2月17日(土) 14時~(開場13時30分)
 出演：磯干彩香(あかぎ団)・加藤さやか(あかぎ団)・東野善典(地元役者)
 萩原朔美(前橋文学館館長)・KPC(音楽)・他 定員：先着80名
 申込開始日：2023年12月18日(月)

文学館へ行ってみよう!
 体験
 ワークショップ

ワークショップ
 その1 「ミニ障子」を作ろう

展示会とその会場をより深く楽しむ! 朔太郎の詩にも登場する「障子」を展示に協力いただいた建具組合の職人さんと作ります。
 2024年5月26日(日)
 講師：群馬県建具組合連合会(協力：群馬県職業能力開発協会)

ワークショップ
 その2 「猫なチャーム」を作ろう

「青猫」にちなみ、振ると音がするシャカシャカチャームを作ります。大人も子供も楽しめます。
 2024年4月13日(土)
 講師：前橋文学館のひと

各ワークショップともに
 1回目 10時~11時30分
 2回目 13時~14時30分
 3回目 15時~16時30分
 (予定)
 各回定員：20名
 申込開始日：3月18日(月)



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>

※未就学児の参加は保護者が補助できる場合は参加可能。イベントの詳細はHPをご覧ください。
 小学生以下のお子様は保護者(16歳以上の方)同伴で入館をお願い致します(保護者の入館料が別途かかる場合がございます)

参加費：無料 (入館料別途)
 申込み：事前予約(空きがあれば当日参加も可能)
 会場：文学館3Fホール
TEL.027-235-8011



同時期開催
 飛行機乗りと風船乗り
 「ふはりふはりと昇つて行かうよ。」
 -サン=テグジュペリ・堀越二郎・萩原朔太郎
 2024年3月9日(土)~6月9日(日)
 会場：3階オープンギャラリー

・担当学芸員によるギャラリーガイド 3月23日(土)15時~(予約不要)
 ・会期中、展示替えを行います。詳細につきましてはHPにてご確認ください

展示会案内サイト▶